

## 練馬区小中一貫教育資料作成委員会（第14回）「キャリア教育の推進」部会 要点録

開催日時	平成22年7月28日(水) 午前10時11分～午後12時20分	
会場	練馬区立大泉学園桜中学校 2階会議室	
出席者	委員	廣嶋憲一郎、石井友行、小野雅保、世古徳浩、安井実、望月徳生、根本裕美、飯塚剛、高橋吉久（敬称略）
	その他	教育出版
	事務局	鈴木裕行 指導主事

### 1 挨拶

#### 事務局

本日は大泉学園桜中学校を借りての部会となり、高橋先生に校内を案内してもらえろという話なので、先に見学をして戻って来てから部会を始めたいと思う。高橋先生、見学に際して何かないか。

#### 委員

A3判で2枚のものがあるので、それを持って行ってもらいたい。1階、2階、3階と平面図があるが、いまいるここが2階のちょうど真ん中の会議室。1階が9年生、8年生、それから上に上がって7年生、6年生、そして5年生と普通教室が変更されて大幅な教室変更になっている。小学校との通路については、1階の部分しかない。これから行く2階、3階に通路がないので使い勝手が悪いといった話が出ている。それから特別教室も理科室が一部屋しかないので支障が出てくるが、何とかやりくりしていかなくてはと話をしている。

[校内見学]

### 2. 討議

#### 事務局

それでは事例の検討に入っていきたいと思う。前回、小野校長先生からもらっているものとほぼ同じ内容だが、実は練馬区のキャリア教育担当者研修会で、このリトルティーチャーを小中連携の取り組みとして報告をしていただいた。担当者は各校から来ているので、区内小中学校全校にこの事例は改めて伝わったので報告申し上げたい。

それから小中一貫教育校だより第9号、第10号も用意させていただいた。その他、資料が先生方から届いている。

本日の協議だが、一応9事例の中でまだ協議されなかったものを中心に進めて、時間が許す範囲で、そのほか皆さんの資料についても取り上げていければと思っている。それからお手元の資料の中に、年間の部会の予定が入っている。改めてこれを見てもらおうと、今日が7月28日なので、残り9月、10月の進行予定なども念頭に置きながら本日の協議を進めたい。

それでは事例のほうに入っていきたい。5番目のクリーン運動、それから働く意義について飯塚先生のほうから資料が届いており、あと1/2成人式、「この町だいすき」がある。この事例から取り上げていきたい。

## 委員

前回の話し合いを受けて、A3判に60ページ分のプロットづくり、執筆者が誰かを示した。1～3は事務局で作成してもらい、私たちの割当ては4の学習指導案とワークシートの9事例なので、一応機械的に当てはめてみた。鈴木先生から出してもらった事例の順番が若干前後しているところがあるが、それは今後入れ変えることも可能である。

一応イメージとしては左右見開き、例えば1ページ目と2ページ目が見開きになるようにしているが、冒頭の事務局作成のページが何ページになるかがまだ見えていない。裏面の各事例のページの構成については、6ページで作成するところと8ページというところの2種類がある。1ページ目と2ページ目については各事例共通だと思っている。例えば、1ページ目の最初のページにはⅠ期、Ⅱ期、Ⅲ期における事例と活動名、それから実施学年、指導時数、ねらい、本事例とキャリア教育との関連、本事例の小中一貫教育における期待される効果、次の2ページ目が本事例の概要、指導計画である。そのあたりは共通で、あと3～8ページまでは事例によってページ構成が変わってくるのではないかと。たたき台として一応作成してみた。

## 部長

いま私たちのほうで作っている9事例は、大体見えてきたと思う。一番見えないのは、事務局作成のところ、特に3番の中間報告書記載の指導プラン例である。中間報告書で指導プランとして出した事例と重複しないように、どういう形で指導プランをここに入れるのか。これを早めにやってもらう必要がある。重視する指導事項のこの図をもし本報告書で生かせるのであれば、9事例プラスアルファにできると思う。それと同時に、学習期というのは、Ⅰ期、Ⅱ期、Ⅲ期という意味での学習期でいいのか。キャリア教育の場合、重視する指導項目に自己肯定感と望ましい勤労感・職業感の二つを入れているので、流れを考えると1番の学習期と2番の重視する指導事項だけが最初にあって、中間報告書の指導プラン例を選択して、なおかつ石井校長先生につくってもらったキャリア教育との関連というのが事例ごとに出てくる。

## 委員

1～3については、他の3部会についても共通なのか。

## 事務局

4部会共通にしなければならない部分なので、いまの話は持ち帰って五十嵐先生にも伝えたい。本日はその部分はちょっと保留ということにしたい。

それでは各事例に入りたい。全部で5事例になるだろうか。ある程度見えているものについては簡単にいきたいと思う。根本先生担当の「この町だいすき」から順にいきたい。

## 委員

その前に、「がっこうだいすき」について、8ページは厳しかったので6ページ+1でつくった。これは8にしないとだめだろうか。もし8にするのなら、石井先生が示したワークシートの使い方というのをいれて8にするがそれでいいか。

## 事務局

可能であれば8ページにしてもらいたい。偶数ページでそろえると、全部左始まりになるのでページを組みやすくなる。最終的には全体を見て、入れるか入れないかを決める。

## 委員

8ページになるようにしていきたい。では「この町だいすき」の検討をお願いしたい。昨年度検討したものがもとになっていて、単元のねらいなどは少し形を整えただけである。教えていただいた指導する側としてのねらいという視点で書き直し、あとは項を少し起こした。

④の本事例とキャリア教育との関連も昨年度のものをもとにした。また自分が実践してみて「夢や希望、あこがれる自己イメージの獲得」というのが2年生なりにあった。ああいう優しい人になりたいとか、いつもにこにこしているようなことを自分の生活でもやっていきたいというようなことが子どもの作文の中に出ていたので、「夢や希望、あこがれる自己イメージの獲得」も期待したいので入れた。本事例の小中一貫教育における期待される効果については、職場体験までの素地になるのではないかという書き方をした。それからもう一つ、これはできるかどうか分からないが、一人の子どもの成長をポートフォリオ的に見ていけたらという願いを込めて書いた。2ページの⑥本事例の概要を、大きく二つに分けた。これは「この町だいすき！Ⅱ」という活動で出しているので、「この町だいすき！Ⅰ」のところで一度探検活動をしていることを踏まえて「もっとなかよし！私たちのまち」を10時間、「もっと大好き！私たちのまち」を10時間とした。町の人と仲良くなるためにはどうすればいいか、挨拶に行ったり仕事を見せてもらうというのが最初の10時間。それから、実際に行ってお手伝いをさせてもらったり、それからお手伝いをさせてもらった方々を招いて探検発表会をやるというのが後半である。

また、カードを3枚入れた。この事例に関するカードは大量にあるので8ページにしても埋められる。「町たんけんパスポート」がカード1で、事前の準備のためのカード。このカードの使い方が下に書いてある。2番が発表会に向けての準備カード、3番が発表会の時のカードである。また、資料として町探検の前に共通理解を図ってチェックする「準備することチェックリスト」というものを1枚入れた。後は小さいが、依頼状とお礼状の見本を入れた。どれを入れてどれを抜いたほうがいいのかとかいう意見をいただければ、そのように直してきたいと思う。

## 事務局

事例としては昨年度も検討されているので特にないと思う。関連して、私のほうからお願いすることになるが、原稿の電子データについて、いま根本先生から資料をPDFで貼りつけたという話が出たが、一旦こういう形で原稿の完成形態を作ってもらい、ワークシートのオリジナルの電子データは別に提出してもらいたい。データは修正もするし、ページを完成するときにはPDFの貼りつけ方とかそのへんもこちらで調整できるので、両方頂けてもらえるとうれしい。それから一番うしろの保護者向けの通知も同じように電子データでいただければ、中の記載内容をちょっと変えることも可能なのでお願いしたい。ほかの部会とも調整していかなければならないが、基本的には実践報告というよりも事例の提案という形なので、例えば通知のところに学校名とか教員の名前とかが入っているけれども、これは抜いた形で載せることになるかと思う。

**部長**

PDFの画像を文字読み取りソフトで読みこめば、全部打ちこまなくてもいい。例えば指導案が4枚ぐらいあるが、小学校から電子データをもらうのも難しい。画像でも構わないということなのでそれをお願いしたい。

**事務局**

オリジナルの電子データがあれば一番助かる。

**委員**

協力へのお願い、協力へのお礼とか、こういうところはすごく大事なところだと思う。やりっぱなしでお礼も何もなく、地域の関係がそれで気まづくなってしまうことがある。教員は忙しいからそういうところが抜けてしまって、あとのケアが難しくなったという例もあるから、その点ですごくいい資料だと思う。事例1を6ページでまとめてもらって、事例2を8ページに増やしてもらったらどうか。

**委員**

そうさせてもらえると、こちらも楽になって助かる。

**部長**

例えばこういうお知らせは、ペーパーで載せてなおかつ電子データでCD-ROMに焼き付けてというのはできないか。

**事務局**

ワークシートや資料として入れるものをCD-ROMに入れることは可能だ。

**部長**

例えばワード化したので、加工も可能か。

**事務局**

可能である。

**部長**

そうすると楽になる。小学校名だけ変えればいい。

**アドバイザー**

校名は間違える場合があるので入れないで出したほうがいい。実際にやったものなので校長の名前が入っているが、使う用途を考えると入れない方がいい。

**委員**

見直して学校が特定できないような書き方にする。

#### アドバイザー

事例では学校を特定できてもいいが、コピーしたりデータに落として使えるようなものは外しておいたほうが無難だ。

#### 委員

2ページ目の表中の「指導上の配慮事項」では【カード①】、【カード②】、【カード③】と分かりやすく示してあるので、資料も同じ形にしたほうがいい。

#### 事務局

続いて世古先生の「1/2成人式」の事例をお願いしたい。

#### 委員

I期における事例「1/2成人式」は、総合的な学習の時間を想定して組んである。4年3学期の成人の日あたりにできればいいのではないかと考えた。13時間扱いで、単元のねらいについては読んでいただきたい。本事例とキャリア教育との関連は後で出てくるが、中学生（9年生）を成人式に招いて体験談を聞くという想定で設定した。それから本事例における小中一貫教育における期待される効果については、まだこれから考えたいと思う。

続いて裏の本事例の概要（13時間）は小単元を三つに分けてある。一つ目が成長を振り返ろうということで、生まれてから10歳までの10年史を作ってみようということで、6時間扱いで組んである。2番目にこれからのわたしということで、将来の夢や職業について考える。最後の小単元は1/2成人式をしようということで、発表内容を話し合っって検討し、1/2成人式では保護者や校長先生、それから9年生の体験談を聞いてみたらどうかと考えた。

それから⑦として本時の展開を2ページ扱いで載せてあるが、1/2成人式の準備段階のものと、1/2成人式の式次第の例を載せている。式次第の中に中学生（9年生）に来てもらうということで設定してある。ワークシート・カードについては、先生方の実践事例を見ながら考えていきたいと思う。保護者、それから中学生の依頼文、ワークシート等はこれから考えていきたい。

#### アドバイザー

今日の見学ではないが、向こうの校舎にいた子が今度はこっちに来る。言ってみれば小学校4年生で一つの区切りがつくという意味合いがある。だからほかの学校で行う1/2成人式とちょっと違う。それを書き込んでもらいたい。この校舎の3階には5年生が入ると言っていた。5年生になると、ずっと向こうの校舎から一番こちらの外れの教室に来ることになる。それなりのワクワク感もあるし、不安感もあるかもしれない。振り返る部分と、このあとの来年からの期待みたいなものがここに入ってくるとすごくいいと思う。

#### 委員

小学校4年間の生活が終わり、こちらへ移り、5、6年と7、8、9年が一緒になり、今度はこちらのほうが5年間で長い生活になってくる。5年生で来るけれども、今度は自分が一番

下になる。それから児童会、いわゆる生徒会にも5年生から入るので、そうした新たな一歩を踏み出していく。また、そこの中での関わり合いを自分の中で意識して主体的に動いていく。1/2成人式はそのような大きな区切りになる部分ではないか。

#### アドバイザー

ワークシートなども、夢や希望を書かせるシートでいいと思う。こちらの校舎にくる期待感みたいなものが、ワークシートに書ければいい。

#### 委員

本来1/2成人式というのは、いままで10年間をどのように過ごしてきたのかということ振り返る部分が主という考え方もあるかと思うが、この場合には、これから先どうなっていくのか、どうしていくのかというところに視点を移してあげる必要がある。そういうところがちょっとほかの小学校とは違うのではないか。

#### 委員

特にこの校舎での5年間の生活というところを視点の一つとして入れると、特色が出るかもしれない。

#### アドバイザー

そうすると例えば1/2成人式の式次第でも、中学校3年生だけでなくもいいのではないか。逆に5年生、第Ⅱ期に入った子たちの代表が何か言うことがあってもいい。この学校の場合は特にそうだと思う。ほかの学校では使えないかもしれないが。

#### 委員

総合の課題を作る時に、5年生のところに行って4年生がインタビューをしてくるとか、そういうところで課題を作ることもできるのではないか。

#### 事務局

式次第の中でも、児童会、生徒会の生徒代表の話があるとか。

#### 部長

実質的に、小学校6年生の卒業式よりも1/2成人式を重く見るということになりそう。卒業式は6年と中1で形式的にはやるが、そんなには重くしない。

#### アドバイザー

Ⅱ期とⅢ期は生活している場が変わらない。それとⅡ期は3年で、Ⅲ期は2年だから、スパンが短い。そういう意味では、小学校と中学校の区切りが変わる感じだろうか。

#### 委員

例えば既に一貫校をやっている品川の実践をみると、6年の卒業式は最大1時間ないしは30

分程度で、親がいるちょっとしたミニ集会ぐらいの感じで卒業証書を渡して7年生に入っていく。そうすると、この4年から5年の区切れ目が卒業式に代わるような位置付けになっているのではないかと。

**部長**

そうすると1／2成人式の式次第というのが、一般の小学校での1／2成人式と違う提案が入るといふことか。

**アドバイザー**

そのへんについては、小中一貫校の場合にはここに特徴があるみたいなことを、少し指導上の配慮事項のところに入れてはどうか。

**委員**

あるいは、あと2ページ分余裕があるから、いま話題に出てきたような桜小中一貫教育校ならではの部分をうまく構成すれば資料としてアピールできると思う。

**アドバイザー**

ある意味、一般の小学校と比べて13時間の使い方が若干違ってくる。

**事務局**

桜小学校のほうに何か具体案はないか。

**委員**

まだ具体案があるわけではない。卒業式などについて、伊藤学園の先生が来られた時にこんな扱いにしているというお話を聞いて、いま小学校のほうは意識改革をしている最中である。6年生の卒業式に重きを置いてやってきたものが、変わってしまうということで意識改革が必要である。

**委員**

そうすると、この小単元「2 これからのわたし」のところ、2時間ではなくてもっと膨らませなければならない。もしかしたら在校生である1～3年生に何か伝えたいことも入ってくるかもしれない。

**委員**

もう一つは、4年生が向こうの校舎ではトップ学年。4年になった時には、向こうを仕切っていなければいけない。そういった意味で小学校4年間の指導を行い、子どもたちの成長を期待して鍛えていく。だから君たちこうなんだよということを、1年、2年、3年に対して言えることも大事である。

#### アドバイザー

結構副校長の責任は重い。事務局はⅠ期の副校長はエース級を投入しないとだめだと言っておいたほうがいい。

#### 部長

結局、目指す子ども像のⅠ期とⅡ期の差別化を図りながら作らないと難しいかもしれない。Ⅰ期はとにかく学校生活に適応したり、友達とのかかわりを深めるとか、のびのびと活動することに主眼を置くが、Ⅱ期になるとやはり人の役に立つとか自分の役割が重視される。そのところを事務局サイドで骨子を作ってもらいたい。やはりⅠ期とⅡ期の違いは明確にしないとイケない。

#### 事務局

Ⅰ期、Ⅱ期で分けた時の10歳の壁というか、4年生の気持ちを考えるとプライドをくすぐる部分でもあるが、Ⅱ期に入ってそこできちんと押さえないといけない部分もあると思う。

#### アドバイザー

社会教育では、3年生とか4年生をトップにして集団を構成して、どこかに連れて行くような企画をよくやっている。そうすると、トップに立つ学年の子はすごく張り切る。いままでの6年間というのは永過ぎる。そういう意味では、Ⅲ期に分けるのはいいと思っている。

#### 委員

6年のトップを見据えてプレトップという4年生団が合同遠足とかミニ集会を仕切っていくようなことを一度やったことがある。その時に、4年生は確かにすごく伸びる。

#### 委員

委員会まではいかないけれども係活動をやった時に4年生が中心になって動くとか、これまで6年生が果たしていた役割を与えていくということについて、いま小学校がかなり工夫をしている。

#### 委員

いままで6年生がやっていたことを4年生がやるようになると効果が期待されるのだったら小中一貫教育校ではなく3校制にすればいい。Ⅰ期校と、Ⅱ期校と、Ⅲ期校と3校に分けたほうがそれぞれの役割が明確になって伸びるのではないかな。

小中一貫ということとⅠ期、Ⅱ期、Ⅲ期ということはどうのように整理をすればいいのか、どのように位置づければいいのか自分自身の中で整理されていない。

#### アドバイザー

小学校の先生は4年間だけではなくて当然教科担任も入ってくるし、教師の指導もいままでとは違って小学校だけ見ていけばいい、中学校だけ見ていけばいいということではなくなる。だから、一人の子どもをどう指導していくかというのは9年間を見通した指導になる。ただ、



アクセントがないと9年間つなげていくというだけではやりにくいだろうというので、4-3-2と3期に分けた。私自身は、Ⅱ期とⅢ期をどうするかの方が難しいかもしれないと、校舎を歩きながら思った。9年間見通して指導をするということは、いままでの小学校の先生も中学校のことよく知っていて、中学校の先生も小学校のことよく知っていて、9年間を通してその子どもの成長を見ていくわけだから効果はあると思う。しかし、実際の指導の中であまりにもスパッと分けすぎると、先生が心配しているような事態が起こる。小学校4年生がちょっと大人になったと感じる場面はあってもいい。でも、小学校6年生は何なのか。中学校というかこっちの校舎は、5年間で間延びしないか。だからそのへんの指導のメリハリはどうするかといった課題はこれからいろいろと出てくる。あくまでも一人の子どもを見た時に、小学校が終わって中学校に行くのではなくて、義務教育9年間を通してその成長をずっと大勢の先生が指導していく。だからいままでより手厚くできるのではないかとか、もうちょっとならかにできるのではないかと思う。いままで言われていたいわゆる中1ギャップとか、そういうことが解消されるのではないか。小中一貫のメリットというのはそのへんのところだと思う。

部長

これは単純な疑問だが、専科は別にしてもⅡ期の5、6年生は全科担任制か。

アドバイザー

第Ⅱ期は教科担任制でやる。

事務局

まだそこまでの確認はしていない。

委員

いまのところ、中学校の教員については各教科1名しかないので、6年、5年に出て行くだけの時間的な余裕がない。

部長

だから教科担任ではなくて全科ではないか。

委員

専科に加えて国数社理の4教科は何か教科担任制に出来ないかと話をしている。また、なんとか3年生から英語活動が始められないかと考えている。先ほど廣嶋先生もおっしゃっていたが、5年生、6年生にとってはメリットがいっぱいあってほかの学校と違うが、いざ7年生、8年生、9年生といういわゆる中学部に来た時には、ほかの学校とほとんど変わらない。へたをすると小学校5、6に手厚く入っている分、7、8、9の部分は手薄になる。

部長

では、7、8、9の先生、中学校の先生が小学校を教える場合もあり得るのか。

#### 委員

時間的な工面がつけばあるうる。

#### 部長

例えば家庭科の先生がいたとして、兼務発令で5、6年生の家庭科やるということはあるのか。

#### 委員

特に、実技教科については時間的な部分で融通がつくのでありうる。

#### アドバイザー

だから兼務発令をして、第Ⅱ期からもう全部教科担任のスタイルに持っていかないと、小中一貫をやっても逆にマイナス面のほうが強調されてまずいかなと思う。小中一貫を行っているところは大体、兼務発令をしている。

#### 部長

教科担任というイメージはあまりなかった。

#### アドバイザー

勉強の仕方がいままでとは変わる。

#### 部長

担任の役割が中学校に限りなく近づいていくのか。

#### アドバイザー

限りなく近づく。だから5年生、6年生はかなり明確にメリットが出せる。しかし先生がおっしゃったように、中学校1年生、2年生、3年生にとってはお守りばかりしていて、逆に進学対策とかがどこまでできるかという課題がある。そうすると、7年目に出ていくということがありうるかもしれない。そこが次の大きな課題になると思う。

そうならないためには力のある先生を持ってくるしかない。ここの学校の先生は力があってきちんと教えてくれて、進学の相談をフォローしてくれる先生がそろっているという、そういう評判が行き届かないと、メリットがあまり表に出てこなくなる可能性がある。

#### 事務局

ほかの事例で、例えば小学校の先生が中学校のTTや少人数の指導などに入って、継続性を保つというような指導をしている例がある。中学校側でも知っている先生、小学校で教わった先生に引き続き教わるというメリットがあるかもしれない。

#### 委員

これも素朴な疑問だが、当然授業をやるということは評価をしなければいけない。このⅡ期

の評価というのは、5、6年生と7年生で評価の仕方は違ってくる。

#### 事務局

評価は基本的に変わらない。

#### アドバイザー

評定も3、2、1を5、4、3、2、1と変えてしまう。

#### 事務局

評定のところはそうだが、評価の仕方そのものの考え方は、小学校も中学校も基本的には同じ考え方。通知表のレベルと指導要録のレベルとまた違うので、通知表の段階でどうするかというのは、学校のほうの工夫だと思う。

#### 委員

いまのところは5年生、6年生はこっちにきているので、いわゆる中間・期末定期考査はやる。英語は英語活動だからやらない。

#### 委員

保護者にとってはすごく魅力的かもしれない。

#### アドバイザー

あともう一つ、小中一貫校にすると生活指導上の問題が改善されるという報告が数多くなされている。4年生が緊張感を持つというのもその一つの例だし、リトルティーチャーの例もそうだけど、中学生が小さい子と一緒にいることによってすごく心根の優しさみたいなものが出てくるという部分がある。だから、小中一貫校は目に見えないところの成果、例えば不登校やいじめなどが極めて少ないという形が出てくるといいなと思っている。

一つ心配なのは、いま言った進学の関係。7年目のところで、やっぱり考え直そうかなという子がたくさん出てこないようにしたい。一人、二人例外的に出ていくのはやむを得ないが、出てこないような手を何とか打たなければいけない。それは生活指導の問題よりも大きく言えば進路指導だが、ここをきちんと保証してあげられる学習指導体制が組めるかどうかにかかっている。そういうものは見た目では分からないけど、結局は保護者というか地域の評判になると思う。あそこの先生は親切に進路指導をきちんとやってくれるし、面倒見がいいからというふうにならないといけない。

あとは、ここに配属された先生たちの意識の問題もある。おれたちの学校はこれだけ期待されているから頑張るぞと思ってもらえればいい。

#### 部長

7、8年の子どもが穏やかに生活できて、本当に思いやりがある子どもたちになればいいが、今度はここで中だるみが出るのではないか。5、6、7、8、9年の中の中だるみをどうするか。よく中高一貫校で中だるみの話が出る。高1とか高2で中だるみが出てしまう。このⅡ期

とⅢ期の差別化というのは、ある種、中学校側としては大きい課題である。

#### 委員

えらそうなことを言って風を切っている生徒が、小学生の前に行ったら「荷物重いから持ってあげるよ」といった行動が自然と出てくる。また、この前も話したが、上の学年の生徒が痛くても痛いと言わないで頑張り切る。そうしたようなところが出てきている。

どれだけ学力がついたかということはまだ出ていない部分になるが、そういう人間的なふくらみというのはいろいろなところで報告されている。

#### アドバイザー

例えば7年生をくすぐって、7年生にプライドを持たせる。要するに、Ⅱ期のトップは7年生で、いままでなら中学校1年生で一番下に扱われていたが、実は君たちがトップだぞとプライドを持たせる。あと8年目と9年目は、もう将来に向かって運動も勉強もガンガンやってもらって、君たちの姿を小さい子が見ているぞという流れができればいい。だから7年生をどうするかというのが、次の課題になる。

#### 部長

キャリア教育を考えると、飛鳥中と近くの専門学科の高校が連携をされていて少し入りやすくなっている。だから練馬地区の高校と連携してそういうフレームができると呼び水になる。

何か高校との関わりみたいなものがあって入りやすくなるといった仕掛けみたいなことがあるとよいのではないか。この中学校が進学率とか進学先とかを見て判断する親もいる。

#### 事務局

この1/2成人式に関してワークシートなどの情報がほしいという話があったが、どなたか実践例をお持ちではないか。

#### アドバイザー

もう世古先生の頭の中では鮮明にイメージができているから、ワークシートは要らないと思う。要するに、いまのことから言うと既存のワークシートでは役に立たない。

#### 事務局

次にクリーン運動について協議したいと思う。

#### 委員

クリーン運動・クリーン作戦の事例の件は7月13日の部会で急遽決まって、翌日の夜に高橋先生が我が家にデータを届けてくれた。桜中・桜小のデータしかなかったのが、大泉学園のものも含めて作ってみた。Ⅱ期の例ということだが、Ⅰ期～Ⅲ期全部入っている。だから特別Ⅱ期というわけではない。4番、5番はまだ自分としてもぶれている。なぜかという、全体としての方針がまだよく見えていないのでⅡ期で書かなければいけないのか、Ⅰ期～Ⅲ期の一つの例として書かなければいけないのか迷って、つぎはぎだらけのものになってしまった。ご

指導いただいて手直ししていきたい。小学校、中学校二つの指導計画を一気にまとめてみた。11月2日(月)というのは一昨年なので、たぶん一昨年のものかなと思いながら書いた。それに学園のものなども加えて整理した。ゴミの分別などに関しても配慮しなければいけないと思ったので、本校でやっているデータを加えた。残りの3ページは、桜小・中の例を見ると桜中が小学校に生徒会役員を使って呼びかけをしていたのでとりあえずこれを載せた。それから生徒会誌か生徒会広報にクリーン運動のことが出ていたのでそれを載せた。桜中の写真が四つ。それから本校でいじった画像があったのでそれを二つ載せている。あと少しは考察めいたことに触れなければいけないと思って、写真の下に【考察・分析】と【期待される効果】を書いた。それからワークシートが必要だということで、最終ページにクリーン運動の担当教員になった人のために【確認シート・担当教員用】を載せた。

#### 部長

PTAの方たちに一緒にやってもらったりしたのか。

#### 委員

桜小、桜中も、またうちも、そんなにPTAとタイアップして大々的にはやっていない。本校は校外委員さんに何名か来てもらい、学年に2人ぐらいついてやっているが、そういった資料を提供したほうがいいか。そうすると、前半のほうの書き方も変わってくる。

とりあえず6枚で作りなさいということだったので、1週間ぐらいでまとめてみた。先ほど出ていたが、中学生が小学生と行動を一緒にすることで、心の優しさとか思いやりとか人間的なふくらみについてはもっと書けるのではないかと感じている。ご意見いただければどんどん手直しする。

#### 事務局

小学校低学年の活動はほかにもいろいろ工夫しているところがある。例えば指定した日に一斉にやらずに、登校時にゴミを集めて袋に入れて登校するとか、いろいろ学校によって工夫しているがそのあたりはどうか。

#### 委員

ここに掲載されている写真は本当にいい写真だと思う。だからやはり中学生と小学生が一緒にやっているところをすごく大事にしていくといい。この線でまとめていけばいいと思った。

#### 委員

あと入れられるなら、ワークシートだったら例えば誰と一緒にやるかとか、どんな気持ちでやるかなどがあってもいい。小学校は小学校できっとこういうことが楽しみだといったことがあるだろうし振り返りもある。

#### 委員

高橋先生からもらっている資料なので中学生の作文のようなものはあるが、小学生のものはない。

委員

最後にお互いの振り返りカードを交流するようなことができるといい。

委員

では作ってみる。

アドバイザー

小学生・中学生という形にするのか。さっきの話ではないが、Ⅱ期の子供はどうなるのか。

部長

どこが主体なのか、学年平等に主体なのか。要するに、指令するところはどこなのか。

委員

指令するところは、【指導計画資料】の2ページ目の「3. 時程」に書いてある。小学校の集会のような形で、中学生がまず小学生の後ろにつく。そうしながら、生徒会役員が前に出てきてしゃべる。中学校の生徒会役員が中心である。

委員

中学生が「私たちが住んでいる地域だからきれいにしようよ」と言って、小学生を巻き込んでいく。

委員

この3番のところに学年ごとの打合せがあって、小学校の代表者が一人しゃべり、さらに中学生の代表者が一人しゃべって紹介している。

委員

小学校の側としては「お兄さん、お姉さん、よろしくお願ひします」といったあいさつだと思ふ。また、中学校の代表者あいさつは「皆で一緒にきれいにしようね」みたいな働きかけだと思ふ。

部長

2学期11月になると、生徒会役員は中2か。

委員

生徒会役員は後期のグループだから、会長も2年生である。

委員

担当ではないからよく分からないが、練馬中と春日小学校が合同で地域クリーン運動を年に1回行っている。中学校は1年生、小学校のほうは5、6年生ぐらいの上級生が出てきて、あ

程度の地域を分けてやっている。1年生～9年生全員では行わずにⅡ期の5、6、7年生、それを7年生がリーダーシップをとって地域を清掃するという方向に持っていてもいいのではないか。そうするとⅡ期の活動になって収まる。

部長

そういう提案事例にするとどこかが主体なのかがはっきりする。

部長

例えばリトルティーチャーも小学校1年生～6年生まで全員が関わっているが、中学生の2年あるいは1年のところで焦点化して小学生は関わるけど薄めている。要するに中学校側のほうで文章を書くと結構書きやすいので、このクリーン作戦の場合も7年生か6年生あたりをターゲットにしたストーリーのほうがねらいと評価は書きやすい。

委員

そうすると11月のふれあい月間の学校としての取組みからは少し離れることになる。

部長

学年の取組みという形で組み込んでもいいのではないか。全校の取組みにしなくても提案はできるだろうし、全校の取り組みとしてもできるという補足をしてもいい。

アドバイザー

実際に行った事例だからこれはこれでまとめて、最後の期待される効果のところそういうやり方もできるとしてはどうか。例えば第Ⅱ期の活動として、中学校1年生がリーダーになって、もちろん小学生や中学校の上の子がやってもいいが、この期の子どもたちの重点的な取組みとして実施することも考えられる。

部長

先生方は一緒に行動しているのか。

委員

教員の動きに関してはあまりデータになかった。ただ、その清掃分担区域略と11番のところに書いたが、ここに何年何組誰々みたいな形で名前が入っていたりする。

委員

せっかくだから、地域班みたいなものがベースになるといいのではないか。

委員

活動は地域よりも学校周辺である。自分たちの住んでいる場所ではなくて、学校の周辺である。それを学年ごとに分けて、中学生から入ってきてもらって一緒にやっている。地域班というやり方もあるかと思うが、学校の周りということでとりあえずやっているから、あまり遠く

へは行かない。

**部長**

分担場所というのは毎回大体決まっています、学年ごとにベースになる情報がある。

**部長**

要するに美化担当の先生が割り振っているので、それは当然資料としてあると思う。

**事務局**

もし資料として加えられるなら、子どものグループ編成、役割分担などが見えると再編成しやすいと思う。

**アドバイザー**

やはりこれは生徒会とか児童会とかの活動であるというのがポイントになる。この5ページから6ページに書いてある考察・分析の部分は、読んでいてなるほどと思うところがあり、これが大事だと思う。ただ実際の活動では、Ⅱ期の子どもたちにリーダーシップをとらせて、Ⅱ期の子どもたちがⅠ期の子どもやⅢ期の先輩に働き掛けながら行うというスタイルでもいい気がする。

**委員**

1年生と2年生の環境委員、給食・美化委員が、前日に軍手から何から何まで全部裏の体育館の前に並べて準備をする。終わると、今度はゴミも回収物もあるから、それも全部併せて片づけて、所定の場所に運んでいく。行っている最中も彼らが中心になって、この道具を持って、これであそこをやってきてと言っている。自分たちも動くけど、皆にも指示してやってもらっているというのが実態である。

**アドバイザー**

そういうことを、さっき言った安井先生の期待される効果のところに入るといい。Ⅱ期の子どもたちを中心にした場合には、準備でこんなことがあるとか、皆で集まって集会を行う時の司会や進行も皆Ⅱ期の子どもたちにやらせるとか。

いい事例が出ているので、この事例の具体的な運用についてはⅡ期の子どもたちを中心に行っているとまとめたほうがいい。そのほうが、手直しも少なくてすむ。

**委員**

私としては非常に楽し、前半の方針も決まってくるので書き直してみる。

**事務局**

今日いただいている中では、特別支援学級の「働く」ってなあに？」があるので、あと1事例はやりたいと思っている。



#### 委員

前回欠席したので、どのような形で話が進んだのか十分把握しないまま書いた。あと本事例とキャリア教育との関係のところでは、光八小の特別支援学級の担任の先生が東京都の開発委員会でやっているキャリア教育の部会に出ていてそこから資料をもらったので参考にした。これは各校に配布されていると思うが、特別支援学級におけるキャリア教育の推進がテーマで、特別支援学級としてキャリア教育をどのように押さえるのかという視点もあったほうがいいのかと思ひ盛り込んでみた。また、前回の部会で、期待される効果という書き方はしないほうがいいのか書けないという話だったが、そのへんも出したほうがいいのかどうかご検討いただきたい。右側のページの活動内容のところは、後ろのプレゼンテーションと併せて見ていただくと分かりやすい。あと、仕事を考えるにあたって、誰にとって役に立っているのかも含めて子どもたちに考えさせることによって働くということについての理解が深まるのではないかと考えた。そのような活動を経てキッザニアに行く。それが終わったあと、将来の夢について語り合い、考える。1年生～9年生までいるシチュエーションのほうがいいのかということで、1年生などが考えたことや職場体験の報告などをこの單元の中に盛り込めるのではないかと思った。

#### 委員

体験している様子が写っている写真があるが、写真を入れてまとめていってはどうだったのか。

#### 事務局

以前の協議では、写真のページを作るのではなく、原稿の中に混ぜ込んで写真を示すというのも一つの方法として出ていたと思う。特別支援学級におけるキャリア教育との関連が最初のほうに出てくるが、このへんについて本事例との関連との書きぶりがちょっと課題かなという意見が出された。働く意義というところで、望月先生のほうで何かあるだろうか。

#### 委員

パソコンの事例についてはまだ文章にしていなくて、柱だけ確認してもらおうと思って作ってきた。8ページ仕立てにしてあって、9ページ、10ページは差し替えたほうがいいのかと思っている。ページを構成していく上で、ワークシートを先に出して、その説明をあとのページに持っていったほうがいいのか確認をお願いしたい。

#### 事務局

両方の事例の話になってしまった。望月先生には文章にしてもらおうということにしたい。

#### アドバイザー

今日、石井先生から出ているページ構成では10ページではなくて8ページ。極力これに合わせられるところは努力して合わせてもらいたい。2ページ目はどうしても「自己確認カード」が入ってこないといけないのか。

**委員**

2ページ目にこういうものを差し込んでいかないと見開きになっていかない。

**アドバイザー**

とにかく原稿を出してもらって、その中で違和感がなければそれでいいということになると思う。

**事務局**

では、また次回に協議を行いたいと思う。今回は各事例がほぼ原稿の形でそろそろ予定になっている。本日はほかの事例についても資料を用意していただいたが、次回までに読んでおいてもらえればと思う。

今回は9月6日 15時、場所はいま確認中なのでまた改めて通知したいと思う。それからこれはお願いだが、各事例、原稿の電子データを、校長先生のメールを経由して私のほうにいただきたい。電子データを全部1本化して原稿を作りたいと思う。ワードと一太郎が混在するものをワード一つにまとめる。そうすると非常に見やすいというか、通して見られるようになると思う。現在あるもので結構なので、送っていただければと思う。最後に石井校長先生にお言葉お願いしたい。

**委員**

着々と進行していると思う。今回はぜひ事務局担当の冒頭部分が見えるようにしていただければと思う。